

未来をひらく 思いをつたえる

# Hirakû

41

表紙：クラフト“とんぼと落ち葉の にぎやか秋びより”

赤や黄色に色づいた葉っぱが舞い落ちる中、たくさんのとんぼたちが秋の空を元気に飛び回っています。

大きな木のまわりには落ち葉がふわりと広がり、季節のうつろいをやさしく伝えてくれます。

空をにぎやかに彩るとんぼと落ち葉に、子どもたちの楽しさがぎゅっとつまった、

あたたかな秋の一日が広がっていますね。

## アイデアを お待ちしております！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の最新ニュースやトピックなど皆さまに役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を  
お待ちしております！

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2025年9月発行 Vol.41

次回 11月末  
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

〒530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com



★キンダーキッズ初! Baby Event開催 !!

★25周年記念イベント Kinder ALOHA Carnival 2025

★Grad Club Summer Events 2025

★Grad Chat “PEP”スタート! ★インフィニティ初等部 北海道探求修学旅行





# キンダーキッズ初! Baby Event 開催!!

7/2 : Tanabata Festival ・ 7/15-16 : Pool Party

## はじめてのつながりを生む場を、ベビークラスにも

これまでキンダーキッズでは、ナーサリー以上のクラスを対象に、行事やイベントを通じた保護者同士の交流や他スクールとのつながりの機会がありましたが、ベビークラスにはそうした場がほとんどありませんでした。まだ月齢の低いお子さまを育てる保護者の皆さまにとって、同じような子育てのステージにいる方々と交流できる場があれば、安心や励みにもつながるのではないかと考え、初めてのベビーイベントを企画することになりました。

「親子で楽しめること」「保護者同士のつながりが生まれること」「初めての集団イベント体験としてお子さまが安心して参加できること」の3つを意識し、英語環境の中で遊びながら、スクールの枠を超えてさまざまな地域・背景のご家庭がつながる機会にしたいという思いがありました。

## 親子で楽しむ初めての体験に、笑顔と交流が広がる

七夕イベントでは、大阪ベイの広いジムに可愛いベビーたちが集まり、短冊づくりや笹飾り、風船スイカ割り、ボールプールなどを親子で楽しみました。乳児用遊具やソフトマットで安全に配慮した遊びの空間が用意され、ネイティブの先生たちとのふれあいもあり、英語環境の楽しさを体感していただける内容となりました。笹の前で記念写真を撮る姿や、風船スイカ割りを笑顔で楽しむ親子の様子があちこちに見られ、会場は終始やさしく温かな雰囲気に包まれていました。

特に印象的だったのは、予想以上に多くのお父様が参加されたこと。短冊を手伝ったり、フォトブースでカメラマン役を担ったりと、家族全員でイベントを楽しんでいる様子が多く見られました。また、初対面同士でも月齢の近いお子さまを通じて保護者同士が自然と会話を交わされていたのも、ベビーイベントならではの光景でした。西宮校でのプールイベントでは、ベビープールや滑り台、水遊び用おもちゃなど五感を刺激する遊びを中心に構成。初めての水遊びに戸惑いながらも笑顔を見せるベビーたちの姿があちこちに見られました。15日は屋上で実施できましたが、16日は雷注意報の



ボールプールのそばで先生とふれあいタイム。おもちゃのクジラに、思わずにっこり。



願いをこめて、親子で短冊を飾るひと幕。お父さんの優しいまなざしが印象的。

ため屋内に変更。代わりに、屋内スペースを活用して、ダンスやクラフト作り、フォトスポットなどを中心に構成しました。さらに、3面プロジェクションマッピングの映像に囲まれたシアタールームでは、映像に手を伸ばして遊んだり、パラシュート遊びを楽しんだり、特別な体験が広がりました。急な変更にもかかわらず、保護者の皆さまにはあたたかくご理解・ご協力をいただきました。

「もっと遊んでいたかった!」また来なくなるイベントに「初めて他のベビーと一緒に遊べる機会が刺激になった」「同じくらいの年齢の子どもを育てる保護者と交流できたことで、心強く感じた」「英語でのふれあいが自然にできてうれしかった」など、ポジティブな声を多くいただきました。特に、「普段は話す機会がない他のスクールのママさんたちと、こんなふうにリアルでつながれるイベントがありがたい」というご感想が多数寄せられ、スクールをまたいだ交流の意義を強く感じました。ある保護者の方が「子どもも楽しんでいましたが、自分自身も久しぶりにリラックスできる時間になりました」とおっしゃっていたのが印象的でした。育児に集中されている中で、こうしたイベントが保護者自身のリフレッシュにもなっているのだと改めて実感することができました。

## 今後も季節のイベントを計画中!

今後も年に数回のペースで、季節や行事に合わせたベビーイベントを継続していきたいと考えています。今回のように他スクールと合同で開催する形式も大変好評でしたので、積極的に取り入れていく予定です。現在はキンダーキッズで毎年大人気のハロウィンイベントを、ベビーちゃんたちにも楽しんでもらえるよう企画中です!さらに幅広いご家庭に楽しんでいただける内容を検討しています。今後の課題として、より天候に左右されない構成や、写真撮影のタイミングを工夫して、もっと思い出に残る形にしていきたいと考えています。また、英語をより自然に楽しめるアクティビティの工夫や、保護者同士が安心して交流できるような時間の設計もさらに充実させていきたいです。



壁いっぱい映像に囲まれて、ボール遊び&パラシュート遊び。シアタールームならではの体験を親子で楽しみました。



クラフトの始まりを前に、もう待ちきれない! 先生のそばへまっすぐに駆け寄りました。



今日のイベントのこと、子育てのこと... ママ同士の輪も広がります。



教育・カリキュラム部  
グレース ムチエンドウ

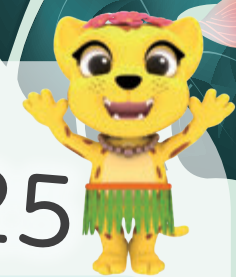
## ◆◆◆ 担当者からのメッセージ ◆◆◆ 保護者同士のつながりが生まれる場をこれからも

今回、ベビー学年のお子さまたちだけが集まる初めてのイベントを開催し、たくさんのご家庭にご参加いただけたことを、心から嬉しく思っています。異なるスクール同士での交流が生まれる中、保護者の皆さまが自然に言葉を交わし、笑顔で過ごしながらお子さまと一緒に思い出をつくられていた光景がとても印象的でした。特に、「保護者同士のつながりができた」という声を多くいただけたことは、今回のイベントの大きな意義だったと感じています。今後も、お子さまたちの成長はもちろん、ご家庭にとって安心とつながり、そして英語を通じたコミュニティづくりの場となるようなイベントを大切に続けていきたいと思ひます。



25周年記念イベント

# Kinder ALOHA Carnival 2025



25周年を記念して、神戸シーサイドで「Kinder Aloha Carnival」が開催されました。ランチ／ディナーの二部制で行われたイベントには、在園生・卒園生・保護者が大勢集まり、夏のひとときを思いきり楽しみました。



受付でレイを受け取り、プールや縁日、フォトブースで大はしゃぎ。卒園生も加わったフラダンスチームがステージに立ち、華やかに披露されました。子どもたちにおなじみのMoon Rockersが登場すると、会場は大きな拍手と歓声に包まれ、熱気は最高潮に！昼食を囲みながら、保護者同士の交流で笑顔が広がりました。



ディナーの部では、姉のHさん(作曲家を目指してNY大学留学中)が作詞・作曲したキンダーキッズソングをギター演奏とともに披露。弟の晴くんはピアノの伴奏と共に、技術の光るクラシックやディズニーソングなど親しみのある曲をバイオリンで演奏。子どもたちが先輩のお姉さんお兄さんの演奏に魅了されている様子が印象的でした。ウェイン園長のBBQも大人気！プールや夜店風ブース、フラダンスやMoon Rockersのライブで会場は大いに盛り上がりました。親子で楽しむ手持ち花火や夜空を彩る打ち上げ花火が、この日のフィナーレを華やかに飾りました。



25周年のとくべつな一日☆  
みんなの心に残る夏の宝ものになりますように！



このイベントの様子は、Instagramにも投稿しています。ぜひチェックしてください！



## Epsom College British Summer School

この夏、Grad Clubでは初めての試みとして、海外と国内それぞれで特別なキャンプが行われました。マレーシアのEPSOM Collegeでの英国式ボーディング体験、そして自然豊かな原村でのキャンプ。それぞれ異なる舞台上、子どもたちは英語を使いながら新しい挑戦に向き合い、大きな成長を遂げました。

## Farm to Table Haramura Camp

### 海外での新たな挑戦、英国式ボーディング体験

今年初めて実施された「EPSOM Summer School」には、Grad Clubの生徒たち（小4～中2）が参加しました。舞台はマレーシアの名門・Epsom College。英国式のボーディングスクール生活を2週間に凝縮したプログラムでは、英語を学ぶだけでなく、多国籍の仲間と共に生活し、自信や自立心を育むかけがえない体験が広がりました。広大なキャンパスで過ごした日々は、生徒たちにとって国際的な学びへの大きな一歩となりました。

### 世界とつながる学びの時間

到着後、生徒たちは英語レベルに応じたクラスに分かれ、世界中から集まった仲間と机を並べました。授業ではゲームやディスカッションを通じて自然に英語を使い、短期間で積極性と自信を身につけていきました。スポーツアカデミーでのテニスやゴルフ、アートや演劇などの多彩なプログラムも、生徒たちの好奇心を大きく広げました。

仲間と食事やさまざまな活動を共にし、国際的な交流と友情を深める機会となりました。学びと遊びが自然に結びついた時間は、英語力の向上を超えて国際的な視野を育むものとなりました。

### ボーディングスクールでの日常

寮での生活も、生徒たちに多くの刺激を与えてくれました。食堂には毎日、バランスの取れた食事が並び、夕方には卓球や映画、読書など、それぞれが思い思いの時間を過ごしました。仲間や講師と語らいながら過ごすひときは、交流の輪を広げる大切な時間となり、日常の中に学びがあることを実感させてくれました。こうした経験を通じて、生徒たちは語学研修にとどまらない成長を力強く感じ取っていました。

### 保護者の皆さんへのメッセージ

この年齢で海外のボーディングスクールを体験できることは、何より貴重な機会です。子どもたちは自ら挑戦し、異なる文化を持つ仲間と共に生活する中で、大きく成長しました。英語力だけでなく、自立心や広い視野を養った今回の経験は、将来の海外留学や多文化社会での活躍へとつながる確かな土台となるでしょう。わずか2週間のプログラムで培った力を、今後の学びや人生の歩みにも生かしてほしいと願っています。



仲間との対話を通じて課題に取り組む姿。学びと遊びが結びつき、国際的な交流と友情を深める時間となりました。



校内のScience Society掲示板。生徒が主体となって科学テーマを発信し、探究心を育む環境が整っています。



Year 7の生徒によるポップアート作品展示。ウォールやリキテンスタインのスタイルを取り入れたスクリーンプリントの授業成果です。

### 自然に挑む、原村キャンプ

この夏、Grad Clubの生徒たちは八ヶ岳のふもとに広がる原村でキャンプを体験しました。美しい山々と動物が暮らす八ヶ岳農業大学の農場を舞台に、子どもたちは仲間やスタッフとの信頼関係を築きながら、日常生活では得られない数々の挑戦に臨みました。初めは緊張していた子どもたちも、互いに支え合う中で笑顔を見せ、自然の中で遊びのびと活動する姿が印象的でした。



農場での収穫体験。自分で収穫した野菜を調理に使い、食べ物への感謝と喜びを実感しました。



自然の中で自由に動き回る鶏と触れ合う体験。普段の生活では見られない飼育環境にふれることで、命や食のつながりへの理解を深めました。



星降る里と呼ばれる原村。満天の星の下での観察体験。星座をたどりながらの観察は、宇宙への興味を広げました。

### Farm to Table の学び

今回のキャンプのテーマは「Farm to Table」。畑で採れた野菜をその場で調理し、仲間と食卓を囲むことで、食べ物の背景にある自然の恵みや人の手間を実感しました。初日には3つのグループに分かれてカレーを作り、翌日には鶏小屋で集めた卵と手作りのチーズやバターを使ってカルボナーラに挑戦。最終日には畑で収穫した野菜をピザのトッピングにしました。子どもたちは初めて見る食材にも臆せず挑戦し、新鮮な野菜の味に驚きと喜びを表しながら、食事を楽しみました。調理や収穫を通じて、主体的に動き、協力して課題を解決する姿が随所に見られました。

### 自然体験と仲間との絆

プログラムには、都会では味わえない多彩な自然体験も盛り込まれました。ドラム缶風呂では「本当にこれに入るの？」と不安そうだった子も、実際に入ると、意外な気持ちよさに感激していました。星空観察では星座をたどりながらの解説に耳を傾け、夜空の美しさに感動する姿が印象的でした。鶏や牛、ヤギといった動物との触れ合いも、最初は戸惑っていた子が少しずつ慣れていき、次回はさらに挑戦しようとする前向きな気持ちを育てていました。火起こしや食事の準備、片付けまで協力し合う中で、子どもたちは協働の大切さを学び、自然の中で心から楽しむ時間を共有しました。

### 保護者の皆さんへのメッセージ

原村キャンプは、子どもたちが自然と深く関わり、仲間と挑戦する中で大きく成長できる機会です。保護者の皆さまには、この体験を選んでくださったことに心より感謝申し上げます。記録写真には、美しい環境だけでなく、子どもたちが積極的に取り組み、心から楽しむ姿が収められていました。子どもたちに「本当に素晴らしい頑張りだった」と伝えたいです。火を起こし、料理を作り、片付けをし、新しいことに挑戦した勇氣と協力の心を、これからの学びや生活にも生かしてほしいと思います。



海外で“使える英語”を体験的に学ぶ!

# Practical English Practice スタート!



海外で“使える英語”を、楽しく体験しながら身につける!

Grad Chat の新レッスン「PEP (Practical English Practice)」がスタートしました。

レストランやホームステイ先など、リアルな場面を想定したロールプレイで、

英語での“伝え方”を実践的に学びます。

## 新グループレッスン「PEP」スタート!

旅行や留学など、実際の海外生活で“使える英語”を身につけてほしい—

そんな保護者の声から生まれたのが、Grad Chatの新しいグループレッスン「PEP(Practical English Practice)」です。このレッスンでは、お子さまが将来直面するであろう場面をテーマに、外国人講師とのロールプレイ形式で英語表現を練習します。

知識として覚える英語ではなく、「自分の言葉として使える英語力」を育てることがPEPの最大の目的です。英語を話す相手とのやりとりを通して、発音やフレーズだけでなく、“伝え方”そのものを身につけられるように設計されています。

PEPは2025年5月にスタートし、以降は奇数月ごとに開催。1回のレッスンは最大3名までの少人数制で、発話量を確保しながら、より実践的な英会話力を伸ばしていきます。同じテーマをもとにしたマンツーマンレッスンも人気で、より個別に練習したい方にも好評です。

PEPは毎回異なるテーマで展開され、実生活に直結した英語表現を楽しく学べるのが特長です。英語でのやりとりに「慣れる」ことを通じて、お子さまの「伝える力」を自然に育てていきます。

## PEPテーマの例

### 5月テーマ：「レストランでどう注文すればよいか?」

メニューの読み方や注文の伝え方を、ロールプレイ形式で練習。注文時に使う定番フレーズや、苦手な食材を伝える方法など、旅行先でそのまま役立つ表現を学びました。



### 7月テーマ：「ホストファミリーに希望や苦手をどう伝えるか?」

「電子レンジの使い方がわからない」「少しホームシック」など、ホームステイで起こりうる場面を設定し、自分の気持ちをやさしい英語で伝える方法を練習しました。



## 受講者の声



K.H.くん(G4)

### 実際に使える英語表現が、“自信”につながりました

オーストラリア研修に参加するにあたり、ホームステイ先での会話に自信を持てるようにとPEPを受講しました。「Excuse me」から話しかけるとスムーズに会話が進むことや、アレルギーや苦手な食べ物の伝え方を、選択肢形式のゲームで楽しく学べたことが印象に残っています。普段のGrad Chatのような自由会話とは異なり、シチュエーション別の練習では丁寧な言い回しや、場に応じた対応の仕方が自然と身につくと感じました。

PEPでは、実際に英語で伝える経験ができて、「できた!」という気持ちが自信につながりました。

実際のオーストラリア研修では、ホストファミリーと会った初日、一番緊張していた中で、PEPで練習していた場面だったので、すぐに対応できました。「スーツケースをそのまま部屋へ入れていいですか?」「僕はどこで寝ればいいですか?」など、迷わず聞けたのが嬉しかったです。



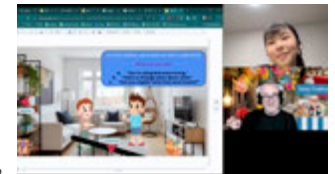
R.M.さん(G5)

### 英語が“生活の中のことば”として、自然に身についていく

今回のPEPレッスンは、オーストラリア研修に向けた準備として参加しました。通常の英会話と違って、ホームステイのような生活の中で使う英語に特化していたので、新鮮な気持ちで取り組むことができました。レッスン中、自分でも気づかないうちに声を出して笑っていて、「先生が画面から飛び出してきたみたい」と思うくらい、臨場感のあるやりとりを楽しめました。

実際のオーストラリア研修中には、“Sorry, I couldn't catch that. Can you repeat that?”と自然に言えたのが嬉しかったです。また、知らない食べ物の名前を聞くと、同じ言葉を繰り返さずに聞き返す言い方をPEPのJelle先生に教えてもらっていて、それがそのまま活かされたのもよかったです。

忙しい日でも自分の予定に合わせて受講できるのが Grad Chat の魅力で、PEPのように実生活に直結するレッスンは、受験や習い事で英語から少し離れているときにもぴったりだと思います。これからも続けて参加したいと思える内容でした。



ご興味のある方は、まずは  
カスタマーサポートにお問合せください。

TEL:06-6573-0166

E-mail:support@gc.kinderkids.ed.jp

次回テーマやスケジュールは  
Grad Chat 予約サイトの  
「インフォメーション」欄を  
ご確認ください。





INFINITY GLOBAL ELEMENTARY SCHOOL  
インフィニティ初等部

旅しながら学ぶ歴史・地理・社会

# 北海道探求修学旅行



6/17~20  
北海道

## 自然や文化と「共生」を学ぶ北海道の旅

6月17日から20日の4日間、インフィニティ初等部マイルポスト2（3・4年生）の子どもたちは北海道を訪れました。今回の探究旅行のテーマは「自然や動物、文化の共生とその未来について学ぶ」。日本の7つの地域を巡る文化学習の一環として、ウポポイやえこりん村、支笏湖ビジターセンターを訪れ、中等部との交流も行いました。

出発前には、北海道の地理や特徴を学び、SDGs課題の解決策についてグループワークを行いました。また、伝統的な暮らしや言葉、工芸品などアイヌ文化についても授業で学びました。中には自主的にアイヌ語を調べてくる子どももあり、旅を前に探究心が大きく広がっていました。

### ウポポイで出会う多様な価値観

2日目に訪れたのは、アイヌ文化を学べる国立施設「ウポポイ（民族共生象徴空間）」でした。ここで子どもたちに強く響いたのは、「すべてのものに神様（カムイ）が宿る」というアイヌの教えです。この話を聞いた後、展示品を見学する子どもたちの姿勢が明らかに変わり、一つひとつの道具や衣装を丁寧に見つめ、「これにも神様がいるのかな」とささやき合う姿も見られました。歌や踊りの力強いパフォーマンスに触れたほか、口琴「むくり」を手作りして演奏に挑戦し、伝統的な弓矢体験にも臨みました。五感を通して歴史や文化に触れることで、子どもたちは単なる知識の習得にとどまらず、異なる価値観を理解し尊重する姿勢を育み始めていました。

### えこりん村で自然との共生を考える

3日目には「えこりん村」を訪れました。ここでは稲作や水辺の生き物観察を通して、人と自然のつながりを体験しました。田んぼに足を踏み入れた子どもたちからは「これはなんという生き物?」「どうしてこんな形をしているのかな?」といった声が続々と上がり、探究心が自然に学びへとつながっていく様子が見られました。生き物の名前をよく知っている子どもが他の子どもに教える姿や、互いに知識を出し合って考える様子もあり、それでも分からないときには



指導を受けながら、伝統的の弓矢に挑戦。文化を肌で感じる体験に夢中になりました。



アイヌの工芸品展示を前に、熱心にメモを取る姿。伝統の技と文化の継承について学びを深めます。



田んぼにすむ生き物の役割や、自然と人とのつながりを学びました。

### インフィニティ中等部との交流

同じ時期に北海道で探究学習を行っていた中等部と合流し、学びを共有しました。事前にオンラインで探究の結果を報告するなどの交流をしていたこともあり、実際の対面は大きな喜びに。年上の生徒をお手本とする姿勢も見られ、「探究」という共通の言語で結ばれていることを実感する時間となりました。

### 旅を通して育まれた学びと成長

今回の旅を通して、子どもたちは感謝を伝え合い、自らのことに責任を持ちながら仲間を助け合う姿が見られました。さらに「なぜ?」と問いを立てる姿勢が自然に生まれ、学びに向かう姿勢が大きく変わってきました。

アイヌ文化、SDGs、農業や環境といった多様な体験は、知識を個別に学ぶのではなく、「自然や動物、文化の共生」という大きなテーマのもとで統合して考える力を育みました。自然、文化、人間の営みはすべてつながっているという視点は、これからの学びを深める上で欠かせない土台となります。何より、この旅で芽生えた「なぜ?」という問いは、子どもたちに受け身ではなく能動的に知識を吸収する姿勢をもたらしました。この姿勢こそが、今後の探究活動を自らの力で切り拓いていく力となるでしょう。

スタッフや先生に質問するなど、主体的に学ぼうとする姿勢が表れていました。泥の感触や小さな命の力強さを五感で感じることで、教室では得られない深い学びにつながったようです。さらに、農場で飼育している羊の毛から紡いだ毛糸を使って織りや工芸品づくりにも挑戦しました。自然の恵みを生活に取り入れる工夫を実際に体験することで、人と動物、環境が支え合う仕組みにも目を向けることができました。



オンラインでつながっていた仲間と、初対面の思い出の一枚。



KUBOTA AGRI FRONTで「PLANTX」の自動栽培システムを見学。ロボットが苗を扱う様子に、子どもたちは未来の農業の姿を実感しました。

### 北の大地で芽生えた探究の力を、これからの学びの原動力に

今回の旅では、子どもたちが仲間と協力し合い、互いの気づきを共有しながら学びを深めていく姿が印象的でした。普段の教室では見られない表情や、自然の中で主体的に行動する様子に大きな成長を感じました。こうした経験を通じて育まれた自信や思いやりは、これからの学校生活や探究活動にも必ずつながっていくはず。ご家庭でも旅の話題をきっかけに、お子さんの感じたことや考えと一緒に振り返っていただければ嬉しく思います。



G3チューター/  
ドメスティックコース  
社会担当  
鈴木 明果

インフィニティ  
初等部HP



大阪市天王寺区  
烏ヶ辻1丁目 2-22